令和８年度（2026 年度）古賀市立舞の里小学校　学校経営要綱

古賀市立舞の里小学校　校長

Ⅰ　学校経営の基本構想

1　学校の教育目標

今とこれからを、幸せに学び生活する子どもの育成

2　学校の教育目標に対する見解

学校生活における学びが将来に有機的に生きて働く原動力となることが、その存在意義と考える。個（孤）の言葉でもって沈思黙考し、課題に向き合い挑戦するたくましさを涵養し、対話によって協働し自他尊重し合う充足感の中で、学びが磨かれ視野が広がる喜びを学校教育で育て味わわせたい。

そのために学校を、子どもができる存在として認められる「子どもの自己実現の場」とする。

子どもの、効力感（できる）や有用感（必要とされている）を体現するために、家庭と連携した健やかで穏やかな生活時間を確保（時間の保障）し、自他尊重によって心が充たされる学校社会（空間の保障）において、よくきき[聞き・聴き・訊き]、探り体験し、学びに没頭し夢中になる幸せや成長を味わう今の連続（場面の保障）が、やがて自らの意思と創意で独自に学び続ける礎になると考える。

① 空間の保障―思いやりの空間･自他尊重　←充たされる心･認め合う穏やかな社会【心】
② 場面の保障―よく聞き、探り、楽しむ場面　←没頭する・夢中になる幸せな学びの場面【知】
③ 時間の保障―挑戦できる･自分と向き合える時間　←健やかで穏やかな生活時間【体】

3　目指す子ども像【教職員評価、児童評価、保護者評価、地域評価 3.3Ｐ以上】

ア　にこにこ―認め合う子ども（人間関係力を育む空間で）R7.7月実績3.5→【めざす総合評定3.5+0.1】
① 優しく穏やかな言葉を使う（音のコントロール）【自己評価 3.5】
② 立ち止まり「あ・あ・あ」挨拶をする　【自己評価 3.6】
（あいてを見て・あたまを下げて・あかるく）
③ 思いやりのある行動をする子　【自己評価 3.4】

イ　わくわく－学び合う子ども（自己と他者と対話する場面で）R7.7 実績 3.6→【めざす総合評定3.7 +0.4】
① よくきき、探り、課題に向き合う　【自己評価 3.5】
② 言葉で考え、言葉で伝える（語彙の獲得）　【自己評価 3.6】
③ 本を読む　【自己評価 3.4】

ウ　もりもり―鍛え合う子ども（自分に向き合い、挑戦を可能にする時間で）R7.7 実績 2.9→【めざす総合評定3.4 ±0】
① 自分に向き合い、へこたれない・諦めない　【自己評価 3.6】
② 係や仕事、掃除に向き合い、達成する　【自己評価 3.3】
③ 安全行動、歩いて登校、よく運動　【自己評価 3.5】

4　目指す教師像

目指す教師像【教職員評価 3.2Ｐ以上】

自ら求め、自ら決め出し、自ら動く教師（長野県伊那小学校「子ども観」から借用）

○　ポジティブ発想をもち、自他尊重し、自律的な言動が取れる教師
・子どもの可能性を探求し、仲間に感謝し、個による省察を行き来する
○　子どもの学びのために、傾聴と協働ができる教師
・教育専門職としての人権感覚を磨く
・子どもの「できた・わかった・考えた」に真摯に向き合い自己研鑽する
○　「時間」と「情報」を大切にする教師
・開始時刻、終了時刻を守る
・子どもに関する情報、教育に有効な情報を収集・共有・発信する

5　目指す学校像　　目指す学校像【教職員評価 3.2Ｐ以上】

人的・物的・自然的・社会的環境を整える学校

ア　明るく楽しく活躍でき、学び合い働きがいがある学校
- 職員と子どもが豊かな言語環境と信頼で繋がり、温かな気持ちをまとう空間
- 危機管理の徹底と、いじめ･不登校、問題行動の早期発見･早期解決を図る意識

イ　活気があって美しい学校
- 音のコントロールができ、発言や挨拶、遊びや歩行に安心感と活気がある学校
- 学びの場の清掃や整頓、シンプル・クリア・意図的な掲示物で、生活意欲や学習意欲が喚起される学校

ウ　保護者・地域に信頼され、愛される学校
- 社会に開かれた教育課程において、地域や家庭と連携・協議し、地域の環境やよさを生かしたり貢献したりする、学びの実践がある学校
- 生徒支援・指導の考えを家庭と共有、家庭への寄り添いと協働がある学校

6　本年度の教育課題と経営課題

①　教育課題

ア　対話と社会化された行動によって自己有用感を味わい、人間関係力を主体的に育む

イ　「よくきき、探り、楽しむ」学びに没頭する幸せを味わう

ウ　健康意識をもち、元気に過ごす自己管理能力を育む

②　経営課題

ア　教職員
- **幸せな学びのための、実践的指導力の更なる向上**
- 課題予防的な生徒指導の充実と、「舞スタンダード」等の全校的取組の共通実践

イ　組織
- **リーダーシップとチーム意識で、分掌の協働化・機能化・活性化**
- **子どもに向き合う時間の確保、質の改善**
- **子どもと保護者に還元できる情報収集・情報共有・情報発信という働き方**

ウ　家庭・地域
- 家庭・地域との協働による健全な生活習慣の啓発
- 発達支援的生徒指導の理解と啓発　（「誰が・何を・どのように」支援するかの整理）

Ⅱ　本年度の重点目標

認め合い、学び合い、鍛え合い、自己有用感を味わう子どもの育成

～対話を通した協働的な学びの場の推進～

※自己有用感：自分と他者（集団や社会）との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価。**「だれかに必要とされているという満足感」**

※自己肯定感（自分は価値がある存在）とは、自己効力感（うまくできる・可能性がある）や自己有用感（自分は誰かに必要とされている・認められている）の、双方の高まりによって育っていくもの

Ⅰ　重点目標達成のための６つの方策

（１）　対話の習慣化プロジェクト「にこにこ」「わくわく」「もりもり」

（２）　子ども自身が課題を見出し、目標に迫る「舞っ子ミーティング」

（３）　「舞っ子ミーティング（特別活動）」「総合的な学習の時間」と「教科や単元」の連携推進（カリキュラム・マネジメント）
（行事の精選と焦点化　　朝活を含む特別活動―総合―教科―道徳の連動）

（４）　教職員の指導力量と社会性、人権感覚を磨くＯＪＴ

（５）　組織運営の工夫と研修の充実、情報共有と連携

（６）　子どもと保護者に還元できる働き方改革

Ⅲ　６つの具体的な方策

（１）対話の習慣化プロジェクト【全校的に取り組む教育活動】

「にこにこ」育成プロジェクト（人間関係力を育む空間）　…認め合いT

～荒れを生まない特別活動～

① 「朝の会」「帰りの会」の共通実践…人権感覚、学習規律の涵養、
自己有用感を育む「朝特」（聞き合い）※要研修

② 「舞っ子ミーティング」…役に立てる・喜んでもらえる「学級会」「児童会活動」
対話と体験の、自治活動による自己有用感の獲得

③ 音のコントロールと「舞っ子しぐさ」
※内容を学級活動⇔代表委員会で熟議（挨拶・姿勢・歩行・黙働掃除・切り替え）
※わかりやすい例や指標―ほめる：あいさつ　あ相手を見て あ頭をさげて あ明るく

「わくわく」育成プロジェクト（自分や他者と対話する場面）　…学び合いT

④ 「朝活」（朝の活動）の目的的な実践―基礎・基本の徹底

⑤ 読書活動の推進（読み聞かせ）→朝読（あさどく）対話
～語彙を楽しみ、語彙が広がり、語彙に作用する～　※要研修

⑥ よくきき、探り、課題に向き合う体験的な学び

⑦ 「言葉」で考え自分を育てる環境づくり

「もりもり」育成プロジェクト（自分に向き合い、挑戦できる時間の創出）　…鍛え合いT

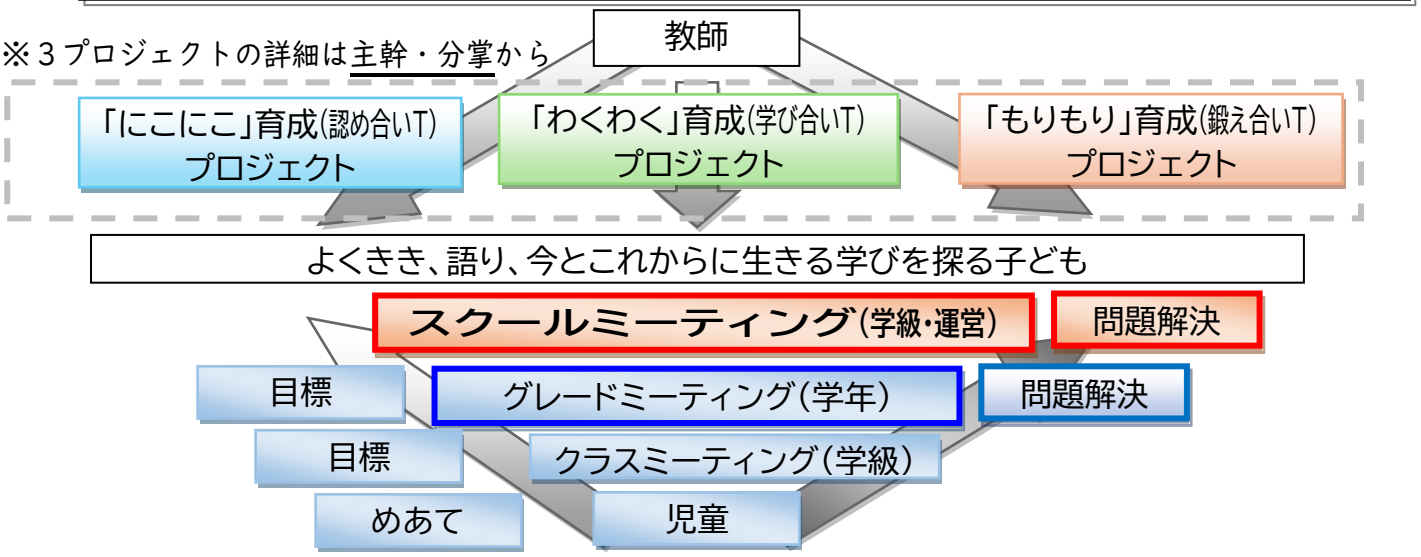
⑧ 「歩いて登校　遅刻０」、睡眠とテクノロジーのコントロール（自己管理能力）

⑨ 黙働掃除、歩行の指導の徹底

⑩ 鍛える学級活動・学校行事（児童発進・児童発信）

（２）子ども自身が課題を見出し目標に迫る特別活動「舞っ子ミーティング」

※３プロジェクトの詳細は主幹・分掌から



※児童が目標に迫る「舞っ子ミーティング」

①学期の始めに「きく・考える・話す」（対話）のアンケート等から、自分の「対話目標」やクラスの「対話目標」を立てる。

② 学年でミーティングを行い、クラスの目標から
「きく・考える・話す」（対話）のグレード（学年）目標を立てる。

③学期間に、「きく・考える・話す」（対話）についての自分のめあての評価をする。
それをもとにクラスミーティングで、クラスの「きく・考える・話す」（対話）の目標達成を話し合う。

④グレードミーティングで学年目標達成と今後の重点について話し合う。
（夏休み前・冬休み前　※検 討）

⑤スクールミーティング（学級活動・運営委員会）では、学級・学校の課題や行事に向けた課題・問題等を対話し、解決の方法を提案、発信、発進する。※運営委員に提出

（３）特別活動・総合的な学習の時間、教科や単元の連携推進（カリマネ）

① 総合的な学習の時間７０時間と教科等との関連を意識し、学年の系統を図る。

② 特別活動（Ｉ）の時間「クラスミーティング」を、年間12～15時間設定する。

日常的な特別活動の指導内容の吟味と開発

（例）「にこにこ」アップ・・・「朝の会」の「朝特」（聞き合い）　　ＳＳＴ
「帰りの会」の“ほめほめタイム”（音のコントロールやまいっこしぐさ）
「わくわく」アップ・・・　舞っ子ミーティングで対話の習慣化
朝読（あさどく）対話で語彙・表現の広がり
基礎・基本の漢字・計算
「もりもり」アップ・・・「朝の会」や中休みの腰骨タイム　“歩いて登校・遅刻０”
学習規律トレーニング　歩行　自立活動　防災・減災行動

③ 教科と単元を「育てたい力・題材・活動」でつなぐ（「何のために」「何を」「どのように」）

	４月	５月	６月	…	１１月	
国語	単元Ｉ	単元２			単元３	
理科			単元２		単元３	
社会		単元Ｉ			単元３	
…		単元Ｉ				
道徳	単元Ｉ					
総合		単元Ｉ	単元２		単元３	
特別活動	単元Ｉ	単元２			単元３	

国語
自己紹介をしよう（話す）
特活
自己紹介カードにまとめる

特別活動や総合的な学習の時間を活用した、社会に開かれた教育課程の工夫

「今、私たちにできること」舞小のよさの実感と発信

・１年生生活と SDGS：「地域の公園を比べよう」「さつまいもの育ち・収穫祭」
・１年生・４年生特別活動：交通安全協会と協働する「交通安全運動」の実施
・２年生生活と SDGS：給食センターを活用した食育、校区探検と道路標示の整備
・３年生道徳と SDGS：人権ｾﾝﾀｰ及び人権擁護委員様支援による「人権の花運動」の実施
・３年生理科と SDGS：地域の農家『お喜楽ガーデン』支援による野菜栽培
・４年生総合と SDGS：古賀市環境課支援によるグリーンカーテンの実施
・５年生総合と SDGS：『ぐりんぐりん古賀』支援によるビオトープ保全、
『九大』支援による雨庭の作成と防災の学び
・６年生国語・道徳と SDGS：「ナガサキ平和への祈り」
・全学年の SDGS：ＬＧＢＴＱに関する課題、ジェンダー平等
・高学年：消防署や日本防災士会と協働する防災・減災教育の実施

（４）　教職員の指導力量向上と社会性、人権感覚を磨くＯＪＴ

① 子どもの実態から、自身の指導内容を省察する態勢づくり
・目的意識（＝何のために）をもった教師の指導言
振り回される対応（指導のタイミングを逸し、対応に追われること）をしない
・教師が人権感覚を磨き、児童の社会的な自立を目指した言語環境をつくろう
〝大人〟として扱う児童の呼称、「です・ます」を使っても築ける親和的な関係

② 一般研修、主題研究の能動的な参加
・校内研修の対話の成果をもとに、令和の日本型教育の「職員室」を追究しよう
・学校の「全体最適」に向かって、親和性と自律性を向上させよう

③ 職務上の研修や面談や連絡会、学年会を活用したＯＪＴ、不祥事防止対策
・教科等研修会、教育センター研修、教育論文等への奨励、自主研修の充実
・一般研修やＡＵＤＩＴを活用した面談の実施と管理職による指導
・情報と動きを滞らせず、風通しのよい職場環境づくりを推進しよう

（5） 組織運営の工夫と研修の充実、情報共有と連携

1 組織運営の工夫

○ 職員の一人一人のよさがいきる分掌組織の工夫と舞リーダーズ・ミィーティングによる情報共有、評価・改善案立案（毎月のT会議、3カ月ごとの評価（夏休み前・冬休み前＋仕上げの二ヶ月）のDoCapサイクルによるミィーティングの機能化）
○ 舞の里小教職員仕事の基本「舞ティチャー」実践の徹底
○ 人権教育の視点に立ついじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止対策委員会の充実
・いじめ、不登校、虐待の早期発見と確実な対応及び教育相談の充実
・配慮を要する子の実態把握と担当者、連携組織等の確認と取組の共通実践の促進
（SC、SSW、ひまわり教室、あすなろ教室等へつなぎ、保護者への啓発と周知を行う）
○ 子どもの主体性や創造力を伸ばす意図的、計画的、組織的な特別活動の取組
○ 特別に支援を要する児童に対する教育相談・支援体制の確立と特別支援教育校内委員会とケース会議の充実
・6月、在籍学級担任の、当該児童が学ぶ通級指導教室の授業参観
・就学指導相談、個別相談、ひまわり教室巡回相談との相談活動の強化
○ 児童の意欲を喚起する環境構成の工夫や、教室等の整理整頓の充実
・学びや学級づくりの足跡や学級活動コーナーの充実
・資料センターとしての図書館の環境整備の充実
・元気に外で遊ぶことのできる安全な活動の場の整備や、児童による主体的な全校遊びの奨励
・家庭学習チャレンジノートまたはノーテレビ・ノーチャレンジ（夏休み期間）
○ 古賀市教育委員会との連携と人的配置の有効活用
○ 教育効果を高める放課後の時間の有効活用促進等による働き方改革の推進
○ 専科及び教科担任制等による高学年・単学級担任の負担軽減
1，2年生 週23コマ 3，4年生 週25コマ 4～6年生週26コマ

2 研修の充実

「確かな学力」と「豊かな心」は両輪である。児童が「わかる」「楽しい」と実感できる、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に取り組む。
★国語科における主題研究の充実（本校の強みを生かす）
自己調整力を高める多様な学び方を追究する。
★道徳教育、人権教育（感染症や性の多様性、ワンヘルスについてのカリキュラム化）
特別支援教育、不祥事防止徹底（コンプライアンス）、健康教育等、学校の課題に対応した一般研修の計画的な実施
★ 教師のニーズに応じた自主研修会、学びの還元の実施

3 家庭・地域との情報共有と連携

○ 舞の里小学校コミュニティ・スクールの推進
・舞の里校区教育推進協議会（学校運営協議会）と連動する教育活動の改善・充実
体育大会や舞の里フェスタ等の協働的な活動
○ 5年生：防災と環境教育の雨庭とビオトープ整備、1年生：（生活）芋を育てる体験活動、2年生・はばたき学級：（理科・総合）野菜作りの体験活動、4年生：（総合）環境教育、 3年生：（総合）国際交流
高学年どちらか：（総合・社会・体育）子ども救命士認定講習（救急救命と AED の使い方）
○ 家庭と連携した防災教育の推進→引き渡し訓練実施
○ 地域への学校開放の促進→図書室の市民開放・アンビシャス広場・星の子文庫等
○ Facebook による地域への情報発信

○ スポコン広場の取組100%以上　　○ 児童・保護者・舞教推の意識調査

（６）子どもと保護者に還元できる「令和８年度舞小　働き方改革」

【舞の里小学校働き方改革の目的】

教材研究や自己研鑽、環境整備等の時間を生み出すとともに、教職員の心身の健康と家庭生活の安定を図ることで、教育活動の充実と豊かな子どもの学びに還元していくことを目的とする。

【内容】

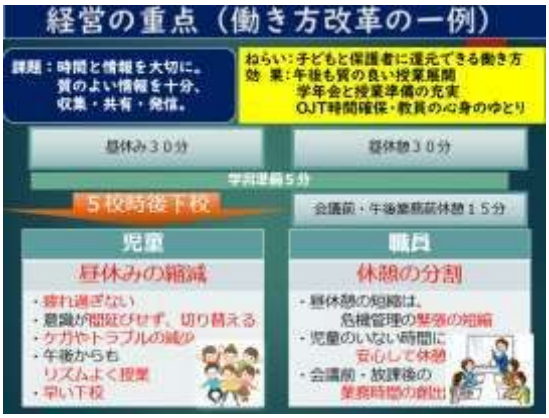
１　全職員で重点目標達成に向かう

学び合い、認め合い、鍛え合い、自己有用感を味わう子どもの育成
～対話を通した協働的な学びの場の推進～

□常に省察・・・・・・・・・・・・・・・・教員の言動も「学びの場」の環境の一部
□自己有用感を味わえる学年・学級経営・子どもの心を荒らさない
□揃えるべき所を揃える・・・・・・・・・自分のクラスだけは…？情報を自分で閉じる？
　自身で全校生徒指導を請け負う覚悟でも？
　ベースがあっての個性です

２　時間と情報の管理

□時制を工夫し、放課後時間の捻出
□適切な情報収集・情報共有・情報発信という働き方
→子どもへ還元、保護者対応へ還元、授業改善に還元、
　職員の心身の健康と安全に還元、円滑な生徒指導と健全な学校運営に還元



□週時制の調整（基本的に、週5時間を週4日設定）
□昼休み30分、昼休憩30分+児童下校後の15分
□勤務時間8時20分～16時50分
□会議の整理と校務分掌の協働化・機能化・活性化
□担当の学年・学級の戸締まりは責任をもって
□定時退校日・学校閉庁時刻の徹底（19時退校）
□超過勤務時間：**月４５（年間３６０）時間以内**の
　徹底（R４：６５時間、R５：５５時内、R６～４５時間以内）
※一日２時間超過（７：５０～１８：２０勤務）で４０時間
□**勤務間インターバル　１１時間以上**を目指そう
「本日の作業は１６：３０に終わろう」
　（会議も業務も全て終わろう→明日の見通し→書類の整理→ゴミ捨て・掃除・鍵締め→出勤印大丈夫か？）
「朝は８：００に開始しよう」（それぞれが決める慌てずしっかりとした仕事開始の状態）
　【リスキーなインターバル例】
　１９：００退勤→８：００開始＝**勤務間インターバル１１時間**　　これ未満はリスキー

３　教育課程と行事の工夫

「カリキュラムマネジメント」によるねらいの焦点化と授業時数の適正化、
学校の実情に合った行事の整理や見直し

（例）□６月個人懇談
・早期に保護者と面識ができ、親子関係の把握ができる
・７月下旬午前中授業、午後に研修、夏季休業中研修なし

□学力定着旬間等の取組
・目的は「チェック」ではなく、子どもの「できる！」実感
・時間・労力・資源の無駄を考慮
・保護者・地域の視点・力―斜めの関係の指導：心地よい安心感・緊張感、情報交換、
　子どものモチベーションアップ

4　意識を変える

□情報の管理・・・「情報伝達遅滞」に対する責任！危機管理上、最悪な事態を招く
□ものの管理・・・鍵や資料等をなくさない（教頭は、管理場所を整備・徹底）
□場所の管理・・・整理整頓をして、作業場所を片付ける（ゆとりスペースの確保）
職員のトイレ整備への意識改革（子どもの権利と生徒指導上の危機管理）
□時間の管理・・・**４０分で充実する授業の研究**
見通しをもつ（期限や期間の適切管理）―仕事の優先順位を決める
―年休を計画的に取得する
□ぱなしの管理・・「出しっぱなし、使いっぱなし、点けっぱなし、開けっぱなし、借りっぱなし」に無頓着な教師の姿
□ＩＣＴの活用・・教材開発をしたデータを残す共有フォルダを作成
他の先生方の参考にもなり、さらによい教材へ改善・開発
教務だよりもスプレッドシート化・・・先まで確認
授業ノートと「ミライシード」の効果的な活用
週案は「ひまわり先生」に自動入力の後、足りないところは手打ち
全児童に知らせたいものは全児童クラスルームを作って知らせる
→紙紛失等の対応無し
□英語専科教員による高学年外国語科授業の実施
□学年内交換授業や７年部活用による、一部教科担任制の積極的な実施、学び合う意識
□外部ＧＴの活用…水泳授業の教育効果の例から、本校教師しかできない授業、指導等

5　校務分掌組織の機能化と外部機関との連携

□対話の習慣化プロジェクト（３Ｔ）と、特別活動「舞っ子ミーティング」（代表委員会　Ｔ・主幹教諭）の機能化と連動化…３育成プロジェクトの連動（ＴＬＭ）※主幹教諭
□教頭・主幹と３Ｔが先んじて協議、効率化と焦点化を図り提案する態勢（ミニ会議）
□教頭は、分掌の仕事の偏りや重複を見つけて解消する
□ＩＣＴ担当と教頭による、各調査の効率化
□各々、情報をオープンにして関係機関と上手く連携
□舞の里小学校教育推進協議会やボランティア制ＰＴＣＡとの協働推進
・教頭を核とした。地域学校協働推進の新たな仕組みづくり
・地域がパートナーとして子どもの安全と教育課程を支えるしくみ
協働する「登下校」、「引き渡し訓練」

6　近接学年ＯＪＴ

□学年・近接学年でＯＪＴを行い、学級経営や授業作り、生徒支援等の情報共有や指導・支援を行う

7　行事等の取組後の、迅速な評価・改善サイクル

□評価を即時集めて、改善・計画まで立てて、次年度に反映させる
□すべての行事の目的を、３育成プロジェクトのねらいに照らす。
（学校経営要綱９―１「対話の習慣化プロジェクト」の３つのねらい）

【ワークライフバランス】
平成 19 年 12 月に内閣府が「仕事と生活の調和憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を制定。これらのガイドラインにより、企業には従業員のワークライフバランスを整えることが義務付け。
平成 31 年４月から「働き方改革関連法」が順次施行。

【考え方】
単純に「仕事を減らして楽にする」ということではなく、また「仕事のために生活を犠牲にする」という考え方も論外。仕事と生活がともに充実し、相乗効果を生み出すことが理想的なワークライフバランスをめざす。
削る・時短だけがねらいではなく、教職員として時間をかけたいこと・かけるべきことのために時間を生み出しましょう。

Ⅳ　重点目標達成のための教育活動の具体

教育活動におけるキャッチフレーズ

教師は授業で勝負する　子どもは行事で飛躍する

◇認め合い、自己有用感を味わう子どもを育てる教育活動

①令和8年度到達目標　Ⅰ―3で表記　←R7.中盤実績 3.5p

①具体的な取組

ア　特別活動、総合的な学習の時間、体験的な学びの充実

- ○　自主的・自発的に課題を見出し、目標に迫る年間 12～15 時間の学級活動(1)と対話活動の充実
- ○　日頃の委員会活動と学校行事を連動させ、自己効力感や自己有用感を味わう
- ○　年間を通した学年ごとの体験活動（地域のひと、もの、こと）の実施
- ○　SDGs 教育推進に向けた節水、節電意識の向上
- ○　花苗の水やり、草取りなど栽培活動の充実

イ　道徳教育と生徒指導の充実

- ○　子どもへの「ほめ言葉のシャワー」による積極的生徒指導の実践
- ○　納得を伴い、自己の生き方を考える道徳科学習の充実
- ○　アンケート等によるいじめの早期発見・早期解決と新たな不登校児童を生まない取組
- ○　年3回の児童一人一人への教育相談の実施
- ○　SSW、SC、民生委員、教育支援センターなど、外部機関との積極的な連携の推進

ウ　特別支援教育の視点に立った個への支援

- ○　交流学級と特別支援学級、通級指導教室における指導の連携を図る校内支援委員会
- ○　子どもや保護者のニーズ、合理的配慮を反映させた個別の指導計画・支援計画に基づくきめ細やかな指導
- ○　配慮を要する子への指導充実を図るケース会議と関係機関との連携、組織的な対応

エ　活用・指標とする調査

- ○教育課程実施状況調査及び週案などの見取りと指導
- ○T会議、TLM会議、MLM会議による自己評価と点検
- ○学校多面的アンケートによる学校満足度
- ○いじめアンケート【いじめ認知度アップ】や舞っ子アンケート、月例報告
- ○児童・保護者・舞教推の意識調査

◇学び合い、自己有用感を味わう子どもを育てる教育活動

①令和8年度到達目標Ⅰ―3で表記　←R7.中盤実績 3.6p

②具体的な取組

ア　重点目標達成に向けた授業づくりの充実

- ○　自己調整力（予見―遂行コントロール―自己省察）を高める視点からの授業改善
  - ・子どもの学びへのアクセスを自由にするICT活用（PC端末や電子黒板等）の推進
  - ・主題研究：集団や社会の形成者をつくる特別活動の創造
    ～チャレンジ活動と主体性を育む支援を通して～
- ○　北中校区学力保障部会「身に付けさせたい力（非認知能力）」を意識した学年経営
  - →　低学年「大切な私（自己受容と安心）」

中学年「チャレンジ精神（挑戦と回復）」
高学年「対話力・自立 （傾聴と協働と意思決定）」
（資料「古賀北中校区 身に付けさせたい力（学力保障部会）」参照）

○ 知識・技能を身に付け、思考力を育む個別最適な学びと協働的な学びの工夫
○ 習熟の程度に応じた少人数指導、教科担任制、交換授業の積極的な実施

イ 基礎学力の定着を図る取組の推進
○ めあてやまとめの焦点化、発問の整理、ノートやえんぴつの使い方に配慮した日常の授業
○ インクルーシブにも配慮した刺激の排除と集中できる環境整備
○ 舞スタンダード「学び方の基本」の週1回の振り返りと互見授業（子ども同士）の実施
○ 毎日の中休み後の「腰骨タイム」を活用した姿勢保持と学ぶ意欲の喚起
○ 長期休業前の算数週間、休業明け課題テスト(4～6 年)の実施
○ 朝の活動や読書ボランティア、図書委員会等による読書活動の推進

ウ 活用・指標とする調査
○研究推進委員会による評価と改善
○T会議、TLM会議、MLM会議による自己評価と点検
○年間の読書冊数平均100冊以上 80%
○古賀市標準学力テストにおいて前年度同一集団のポイントを0．1ポイント以上アップ
○国語、社会、算数、理科の単元テスト期待得点以上90%
○児童・保護者・舞教推の意識調査

◇鍛え合い、自己有用感を味わう子どもを育てる教育活動

①到達目標 Ⅰ―3で表記 ←R7.中盤実績2.9p

②具体的な取組

ア 体育・スポーツ活動の充実
○ 毎日の3校時開始前の腰骨タイム
○ 委員会活動の表現の舞台として、自己有用感を味わい鍛え飛躍する学校行事・児童会活動
○ 体育科学習時における「舞の里体操」の実施 ※動画作成？
○ 体力アップシートの活用とスポコン広場の促進

イ 食育の推進
○ きまりを守り、社会性や感謝の心を育む給食の時間の充実

ウ 命を守る指導
○ 生命誕生と性の多様性、3.11 東日本大震災追悼集会、不審者や非常災害時想定の引き渡し訓練、熱中症対策や感染症予防対策等の実施
○ 子ども救命士認定講習（救急救命と AED の使い方）、薬物乱用防止講習会の実施
○ アレルギー対応の全員チーム化の徹底、相互チェック

エ 掃除指導の推進
○ 掃除前の黙想から掃除時間の黙働掃除実施と、ぞうきん・ほうき等の使い方の指導
○ トイレ掃除の徹底と意識改革、靴箱の靴そろえ、傘立ての日常的指導

オ 活用・指標とする調査
○ 体力テスト結果【県平均以下の項目0】
○ T会議、TLM会議、MLM会議による自己評価と点検
○ 体育科の授業における運動力20分以上